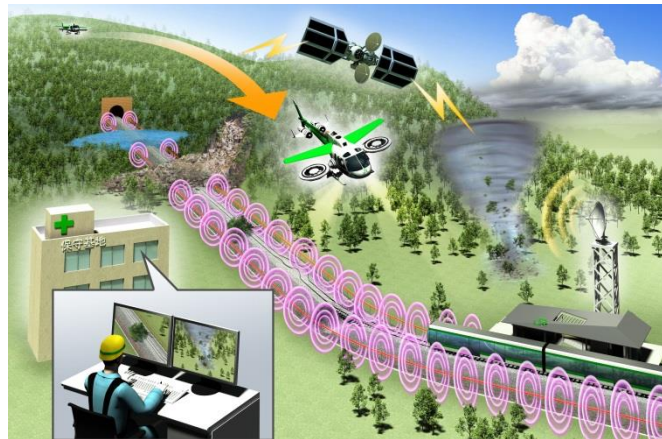
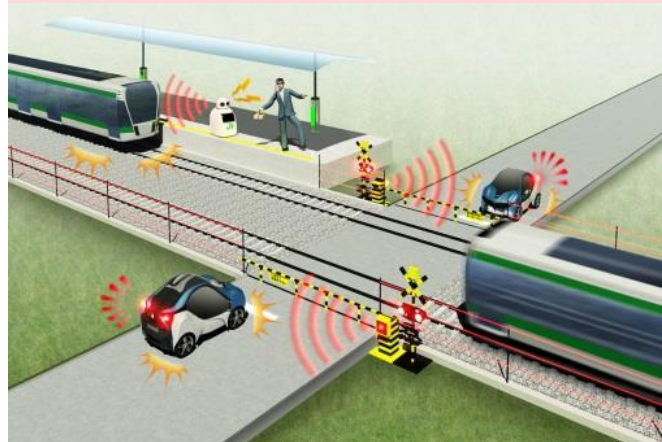


I. 安全・安心

危険を予測しリスクを最小化する

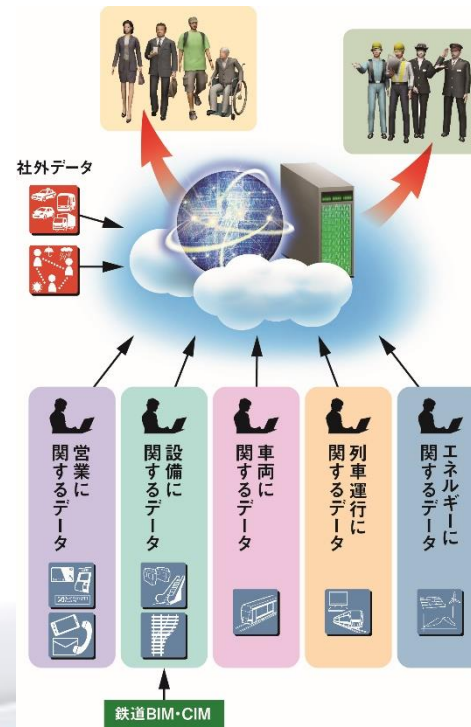


【図1】センサ等を活用した災害等のリスク低減



【図2】ITS・ロボットを活用した踏切・ホームの安全性向上

- 「お客さまの死傷事故ゼロ、社員の死亡事故ゼロ」を実現
- 当社グループに起因する鉄道運転事故ゼロ
- 自然災害に対するリスクの着実な低減
- 社会とかかわりが密接な事故（踏切、ホーム等）を着実に減少させる
- まだ見えていないリスクに備える（経験知では導けないリスクを抽出）

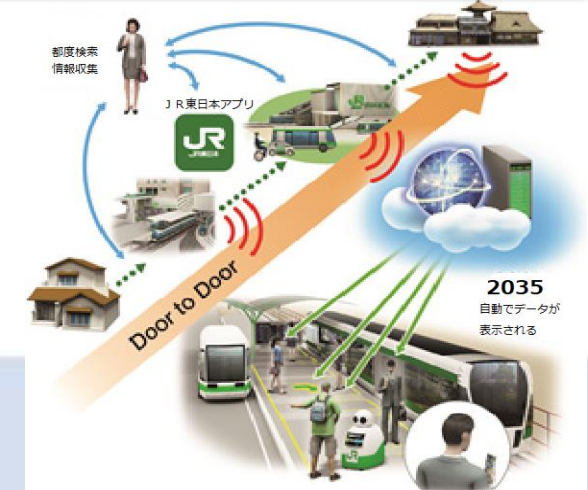


【図8】クラウドシステムプラットフォーム

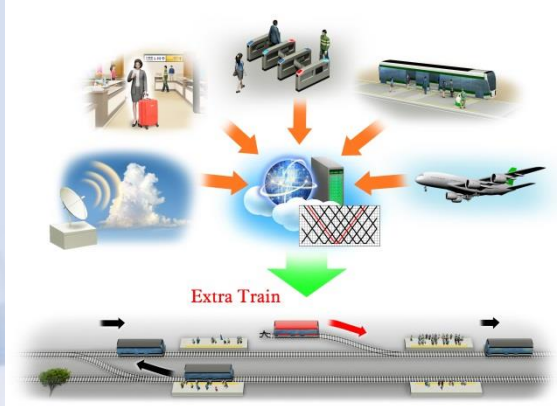
- MaaSの実現、シームレスに Door to Door の移動ができるサービスを提供
- ダイヤだけに頼らないフレキシブルな運行や輸送品質の向上を実現
- 個々のお客さまに寄り添った情報提供による情報のストレスフリー
- 案内・移動支援ロボットの実現
- 次世代チケットの実現
- お客さまの想像を超えた商品やサービスの提供
- 次世代新幹線の実現

II. サービス&マーケティング

お客さまへ“Now, Here, Me”の価値を提供する



【図3】Door to Door の移動と“Now, Here, Me”の情報提供

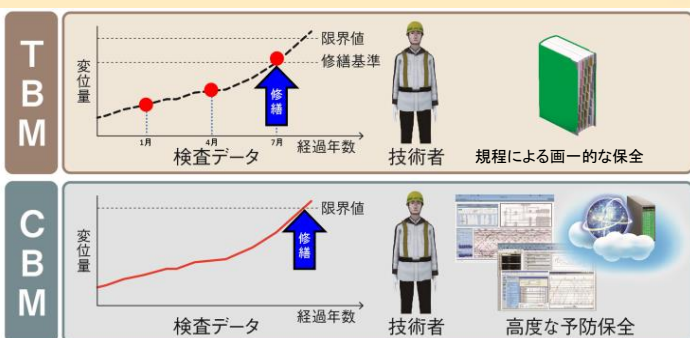


【図4】お客さまの移動需要に応じた臨機応変な列車運行

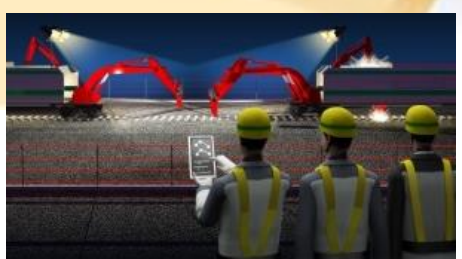
III. オペレーション&メンテナンス

生産年齢人口 20%減を見据えた仕事の仕組みをつくる

- 「人」と「システム」のベストミックスによる働き方の実現
- IoT・ビッグデータ・AI 技術などを用いた CBM や自動化(ロボット化)、安全・効率的な施工法・構造などによるコスト構造の変革



【図5】TBM(時間基準保全)から CBM(状態基準保全)へ



【図6】作業のロボット化



【図9】イノベーション・エコシステムの構築

IV. エネルギー・環境

エネルギーの3E(環境性、経済性、安定性)を向上させ、C(地域社会の発展)につなげる

- ゼロカーボン・チャレンジ 2050 の達成
- 2030 年度の鉄道エネルギー使用量 40%削減、CO2 排出量 50%削減(2013 年度比)
- 水素発電や省エネ開発により電源の脱炭素化に挑戦
- メンテナンス向上や技術開発を通じてエネルギーの有効活用を目指す
- 省エネの徹底やエネルギーの多様化を通じて脱炭素化社会を実現



【図7】次期エネルギーネットワーク